☆ 子ども会（学習会）だより ☆

MY SKY 第26号

マイ スカイ

1996年1月14日火曜日発行（毎週火曜日定期発行）

発行者
板野中学校
学習会
編集・文責：吉成正士

少し遅くなりましたが，新年明けましておめでとうございます。

さてみなさん，初詣は行きましたか？初夢はみましたか？初日の出は見ましたか？そして１年のスタートに何か誓いましたか？

私は毎年思うのですが，どうしてみんな初日の出を拝むのでしょうか？別にそれが悪いとは言わないんですが，初日の出を拝むのなら，大晦日の夕日にお礼を言っても良いと思うのです。もしかするとみんな「ありがとうございました」と言う割合より，「お願いします」と言う割合の方が多いのかもしれません。つまり日本人は，感謝の気持ちより，人に頼る気持ちの方が強いのかもしれませんね。今一度自分を見つめ直したいと思います。

いろんな御託はおいといて，今年もMY SKYを，どうかよろしくお願いいたします。

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◎松本治一郎さんの生涯・没後３０周年におもう（解放新聞より）

今年最初のMY SKYとして，松本治一郎氏の記事をみなさんに，特に卒業していく３年生のみなさんにおくりたいと思います。ぜひとも覚えておいてください。

ところで松本治一郎という人物の名前を，みなさんは聞いたことがあるでしょうか。「解放の父」とも呼ばれ，第二次世界大戦の時，一人で水平社の荊冠旗を守り抜いた人物です。差別を断固として許さず，権力を振りかざす者には正面から闘いを挑みました。その部落差別から生まれてくるパワーで同和対策基本法制定までこぎつけ，そのおかげで全国に同和対策事業を展開することができたのです。今の板野町があるのも，彼のおかげと言えるのではないでしょうか。

そんな彼の生き様を知り，少しでもみなさんの生き方に生かせればと思います。

１２歳で権力に抗し

「差別にたいしての怒り，といいますか，闘うという，そもそもの決心を固めたのは，いつ，どういう時からですか」

部落解放の父とよばれた松本治一郎さんに一対一で，じっくり時間をつくってもらってインタビューしたのは，もう４０年前のことになる。政治部の応援で国会の取材に行き，先輩から「あれが，社会党左派の領袖で‥‥」と教えられたことはあるが，このたびは，部落解放同盟の中央本部委員長としての取材である。大阪・梅田から天神橋筋六丁目(天六)へ向けて，中崎町のほんの小さな旅人宿であった。旧知の田中織之進書記長は，あいさつがすむと，すぐ自室へ引っ込んだ。私の問いにちょっと考え込み「そうじゃねぇ」と松本さん。

１２歳のとき，ふるさと金平で事件はおきた。近くの娘さんがくるわへ家族の生活のため売られた。金で買われる夜ごとのつらさ，部落への悪口雑言にたえかねて娘は家へ逃げ帰ってきた。「前借金を返さずに逃げたら詐欺じゃ」と，警官が連日責め立てて連れ戻そうとやってくる。

たまりかねた近所の人たちが追い払おうとしてもみあい，肩章がちぎれた。翌日１２０軒の大人の男たちは全員，警察へよびだしをくらった。現場にいたのは，わずか１０人そこそこだったのに‥‥。そして，治一郎少年が住吉高等小学校から帰宅して間もなく，竹皮と桐の仲買商に忙しく,事件にはまったく無関係な父親の所へ警官が荒々しく踏み込んできたのだ。台所へすっとんで出刃包丁をにぎりしめた少年の気迫と「帽子をかぶったまま人の家へ入って来おって‥‥」という堂々たる父親の態度に気押されて，捨てぜりふを残して警官は退散していった。

「権力をカサに弱いもんいじめをするものとは徹底的に闘うぞ」という気持ちが，その時から固まった，と松本さんはいうのだ。

『部落・３００万人の訴え』の連載７回で部落差別の現実を書いた翌年には『人権・差別とのたたかい』１４回を，人権キャンペーンで企画していた。松本さんのこの話は「反骨７０年」と題して大阪朝日新聞に掲載されることになる。

組織づくりに全力

「組織をつくって，団結して闘わねば‥‥」という決心を強くしたのは「博多毎日差別新聞の差別事件」だといわれた。１９１６年６月，火葬場をめぐるあしざまな差別記事が載ったのだ。憤激した区民が３００余人集まって大会をひらいている。同じ夜，「上水道建設・市政刷新」を求める市民大会が別の会場でひらかれていた。「博多毎日抗議」の報に，この３００余人も合流しはじめた。警察は騒擾材で６００人の取り調べと３００人の身柄拘束を強行した。

松本さんは，警察の行きすぎに強く抗議するとともに，博多毎日社長から謝罪文をとっている。「権力はじつに強い。これと対決するには組織が必要だ」と痛感したという。

歴史の本にでてくる福岡県知事と市長が計画した筑前黒田藩祖黒田長政の３００年祭にあたり，２市９郡の住民から県税に準じて「奉賛金」を徴収しようとしたとき，松本さんは，「筑前叫革団」をつくっている。

「拒否セヨ　祭費負担ノ割当ヲ　　返サセヨ　吾人祖先ノ汗血ヲ黒田ニ‥‥」

５０００枚のビラを刷ってまき，街頭演説をし，安河内知事と町中でバッタリ出会って説得する。「寄付は，任意です」と通達を出させ，全面的な勝利をうるのである。

松本さんが全九州水平社の委員長に選ばれた１９２３年５月１日(京都・岡崎公会堂で全国水平社創立大会がひらかれたのは１９２２年３月３日だから，１年２カ月後のこと)には，拘置所の中にあった。二日市で入札のことをめぐっておきた乱闘事件を口実に，騒擾罪を適用し，全九州水平社の結成にたいし，警察が妨害戦術にでたことは，今となってはもう明らかな事実である。

高松差別裁判　糾し全国行進

松本さんの「反権威」「反権力」の闘いは，全国的規模となり，鋭くなる。

徳川家達公爵に爵位の辞退勧告をする件を，はじめて参加した全水第３回大会(１９２４年３月３日)に全九州水平社から提案し，その実行委員長となる。あの黒い服，ノーネクタイ，ヘルメット，太いステッキ，アゴヒゲが堂々たる姿で，部落大衆の前に登場するのはこの時からだ。

暗殺未遂のでっちあげで逮捕。懲役４カ月。

全水の議長に第４回大会で選ばれた松本さんは，福岡連帯の差別糾弾の先頭にあくる年に立っている。「朕ハ汝ラ軍人ノ大元帥ナルゾ」という天皇絶対，星の数による上下階級絶対の，軍隊内で続発した部落差別の数々‥‥。連隊長「上司の命です」「その上は‥‥」「旅団長，その上は師団長で，その上は陸軍大臣‥‥」「その上は‥‥」「‥‥」どうしてもいわれないはずだ。大元帥・天皇の名は口がさけてもいえないはず。

そこまで追いつめながら，いや追いつめたがゆえの大弾圧。連帯爆破未遂のでっちあげ「陰謀」で，懲役３年６カ月の有罪判決となった。

天皇制を震撼させた松本さんの出獄は，１９３１年の暮れ。水平社解消意見をのり

こえて部落委員会活動での組織の建てなおしをはかったとき，高松差別裁判が登場するのである。

「特殊部落民でありながら，自己の身分を秘し」と娘さんの父親の告訴にもとづく「結婚誘拐罪」で香川県の部落の男性が有罪とされたのだ。松本さんは「部落民という存在自体を罪とするのか」と糾弾に立つ。

福岡から東京へ。１２００キロの抗議行進がはじまる。デモ行進も，集会も許されず。それでも官憲のスキを衝いて「私は，みなさんの松本治一郎であります」という大声が路地裏にひびき渡っていたのだった。　　（次号へ続く）

２回に分けて掲載しますので，次回もお楽しみに！(わからないことは担任の先生まで)

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◇ これからの日程 ◇◇ ◇

新年早々，考えさせられる文章を目にしました。

闇は野蛮だ，明るいことはいいことだとばかり，暗闇をなくしてきた。
そのことが，どれほど，人間の想像力を無くしてきたか。
なんでも見えてしまえば，考えることをしなくなってしまう。

「う～む」と唸ってしまいました。　まだまだ光の少なかった昔，人間は闇の中にいろんな夢や空想を見てきました。目に見えるものが多くなった今，見えないものを大切に思う気持ちを強く持たなければならないのかもしれません‥‥。

★　★　★　★　★

1月18日(土)　第４回板野養護学校交流会(8:40～：板野養護学校)
21日(火)　『MY SKY 第27号』発行日
28日(火)　『MY SKY 第28号』発行日

▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼▲▼

◎ 「シャンテ」のチケット好評につき残りわずか！！お早く！

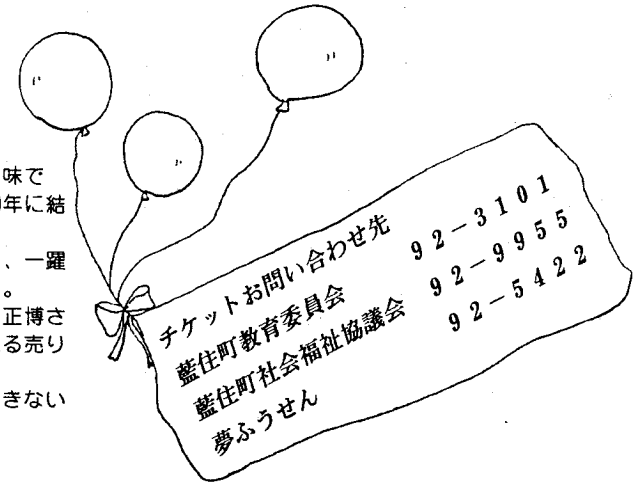
と　　き：２月１日(土)　５：３０開場　６：００開演
と こ ろ：藍住町町民会館
チケット：前売券１５００円　(私，吉成まで)

右のページは，メンバー紹介です。読んでください！！

出演者

シャンテ

●プロフィール
「シャンテ」とはフランス語で「歌声」という意味です。大阪市立盲学校の先輩・後輩の３名で、1980年に結成されました。
1993年――手話ロックボーカル山本智子が加入し、一躍ライブ依頼や取材に追われる日々が始まりました。
1995年――初めての自主製作ＣＤが完成し、桑名正博さんのプロデュースであることも誘い5000枚を越える売り上げの結果を出しています。
1997年も、今まで体験しなかったこと、想像もできないようなことを音楽を通して行う所存です。



ボーカル&ギター　新田裕志　（ニッタ　ヒロユキ）
「シャンテ」の曲は全て彼の作品。音楽をこよなく愛し続ける姿に感動する人は多い。メインのボーカルをも勤めアレンジも彼の仕事。昼間は大阪市内の病院で理学療法士として働き、患者さんからも「歌の上手な先生」として慕われる。音楽に対する感性は持って生まれたものなのだろうか。誰もが驚く音色が彼から発し出される。

ドラムス　井口信明　（イグチ　ノブアキ）
奈良県の住居に帰れば、３人の子供と美しい妻が待っている。昼間は、奈良県の病院で理学療法士として働く。スポーツマンでもある彼は、クロスカントリーに打つ込む。三笠宮殿下と共にノルウェーの世界大会へ３回も参加し、柔道、水泳と体を動かすことに不得意なものはない。

ベース&ボーカル　熊野伸一　（クマノ　シンイチ）
視覚障害者として初めてスカイダイビングを成功させ、スキューバダイビング、スノーモービル、ジェットスキー、カヌー、ストックカート、パラグライダーと無謀と思えるレジャーを楽しむ。ＣＡＴＶで番組を持ちゲストに大信田厚、高田信彦、前田日明、佐竹雅明を呼び格闘家との交流も深い。昼は自宅で鍼灸院を営み、「イルカと泳ぎたい。」と思えばすぐに小笠原まで一人で出掛けたり、海外の至る所に、彼の足跡を残すバイタリティーの固まりのような男である。

手話ロックボーカル　山本智子　（ヤマモト　トモコ）
世界でも例のない手話ロックボーカル。他の３人は誰かのコピーをしながら練習するわけだが彼女だけはオリジナル。つまり、彼女の代わりはこの世にいない。日本国中は元より海外からも講演の依頼を受け「ミュージカルサイン」という音楽の手話の定義を新たに考え生徒も鼠算式に増えている。昼は、一流企業でＯＬを勤め、暇があれば、聾唖者への手話通訳ボランティアをする。多くの芸能人からも高い評価を受け交流の輪は大きくなる一方である。

夢ふうせん

「文化と福祉の充実した藍住町に」と願い、この度、自主企画グループ『夢ふうせん』を結成いたしました。主婦４人によるスタートですので、何分未熟な点も多々あるかと思いますが、スタッフ一同、心を合わせて頑張っていこうと思っております。
今後は、自主企画公演の開催だけでなく、地域の他の文化団体と協力しながら、町の活性化につながる活動もしてゆきたいと願っています。

連絡先：松下（藍住町富吉字地神29－11　☎９２－５４２２）